

ダンボールコンポストマニュアル

～生ごみを減量し、安心安全な堆肥づくりをしよう～

道具をそろえましょう

段ボール

ダンボールコンポストに適した段ボールを作成しております。

基材

- ・ピートモス・・・水ごけが堆積し腐植したものを乾燥、粉碎したもの(15ℓ)
- ・もみ殻くん炭・・・もみ殻を蒸し焼きにして炭にしたもの(10ℓ)
　　<<ピートモス:もみ殻くん炭=3:2>>



※市から上記をセットにしてお渡します

ダンボールコンポストキャップ(虫除けカバー)

- ・段ボール箱の中に虫が侵入するのを防ぐためのもの。
　　※布製品など、通気性を確保できて、段ボール箱の上部を確実に覆うことができるものを準備してください。
　　※Tシャツの襟と肩を縫い合わせて作ることができます。(※P5参照)
　　※通気性をよくするため、ビニール袋は避けましょう。



ダンボールコンポストを置く台

- ・ダンボール箱の下側の通気性を確保できるように網目状のものをご準備ください。(例 ビールケース、育苗ポット箱など)



スコップ又はゴム手袋

- ・ダンボールコンポスト内をかき混ぜるときに使うもの。
　　※スコップで攪拌する場合は、常時段ボール箱内にスコップを入れておきましょう。

●あると便利なもの●

温度計(100℃計)

基材の温度を測るためのもの。温度を知ることで微生物の活動状況を把握できる。

はかり

生ごみを計量することができるので、どれだけ減量したかを把握することができる。

ダンボールコンポストの設置

- ① 雨にあたらないところに置きます。
※ダンボールが水に濡れないようにしてください。
例)ベランダ、軒下、キッチンなど
- ② 湿気のこもらないところに置きます。
※通気性をよくするため、壁からも離してください。



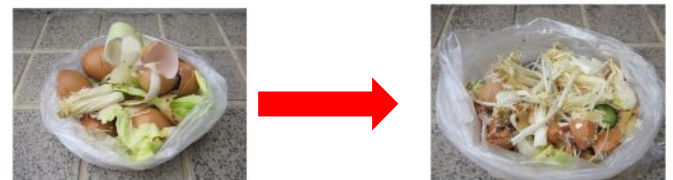
生ごみを投入する前に・・・



- ① ダンボール箱の継ぎ目を紙のガムテープで塞ぐ。
※継ぎ目から虫が侵入して、卵を産みつけるのを防ぐためです。
※布やビニール製のガムテープを使うと通気性が悪くなります。(テーピングがおススメです)
- ② 耐久性確保のために、段ボール箱の底にダンボールを一枚敷いて補強する。

生ごみを投入してみよう

- ① 生ごみを投入する前に、袋の中の基材をダンボールの中へ直接入れ、よく混ぜ合わせて全体に空気を送り込みます。
- ② 生ごみを投入します。
※1日の投入量は目安は500g程度です。
※生ごみは小さくしたほうが、分解が進みやすくなります。
- ③ 全体に空気を送るようによく混ぜます。
※端までしっかり攪拌(かきはん) (かき混ぜること) することが大切ですが、ダンボールを傷つけないようにしましょう。
- ④ 攪拌が終わったら、ふたを閉め、必ずキャップをします。



(上記で160gあります)



分解について

- ・発酵分解はすぐには始まりません。1～2週間の間に生ごみを入れてかき混ぜると温度も 30℃近くを超えるようになります。(置く場所や気温によって異なります。)
- ・生ごみをいれなくても基材の中の微生物は酸素を必要とするため、1日1回はかき混ぜます。
- ・寒い季節などは外気が低いため、温度が上昇しにくいですが、量が増えなければゆっくりと分解されています。
- ・温度が上がらない場合は、使用済みのてんぷら油(200cc以下)や米ぬかを入れると発酵分解が早まります。

分解しやすいもの	分解しづらいもの
<ul style="list-style-type: none">・野菜くず(りんごやみかんの皮)・魚や骨の内臓(少量)・茶がら、コーヒーのがら・肉類・ご飯・廃食油、米ぬか	<ul style="list-style-type: none">・鶏や豚の骨・シジミやアサリなどの貝殻・たまねぎの皮・トウモロコシの芯・塩分を多く含むもの(味噌汁など)・柑橘系の皮(消毒されているもの)・卵の殻(入れる場合は粉々にする)

生ごみ投入終了の目安

※1日の生ごみ投入量が 500gの場合、およそ3カ月投入できます。

- ・基材がべったりしたり、もっちりとなってきた
- ・生ごみを投入しても分解が遅くなったり、温度が上がらなくなったきた
- ・アンモニア臭がする

生ごみ投入終了の
サイン

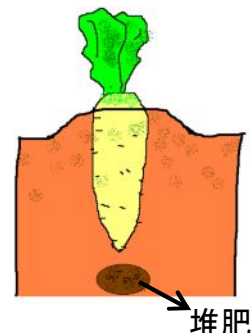
熟成して堆肥へ

- ① 生ごみの形がなくなるまでは、水分を保ちながら毎日かき混ぜる。
- ② 生ごみの形がほとんどなくなった後は、水分の投入を止め、週に1～2回程度かき混ぜる。
- ③ 資材の水分がなくなり、サラサラの状態になったら堆肥の完成。

※分解されていない大きなごみが残っている場合には、取り除いたほうが良いです。

堆肥の使い方

- ・堆肥の濃度が高いため、配合比率は「堆肥1:土 3～4」が理想的です。
- ・根ものの野菜の場合は、割り肥として使用しましょう。
根が堆肥を探すように成長するので、非常に良い作物になります。
- ・堆肥をすぐに使わない場合には、堆肥をビニール袋に入れて日陰において保存してください。(虫が入らないよう、ビニール袋の口はしっかり閉めてください)



不要な堆肥は市で引き取りますのでご連絡ください。
合志市役所 環境衛生課 TEL 248-1202

Q&A

<生ごみの投入>

1. Q: 1日 500g以上の生ごみを投入しても良いですか。
A: 多量に生ごみを投入すると、分解しきれずに腐敗することがあります。
2. Q: 生ごみを毎日投入できないのですが、大丈夫ですか。
A: 問題ありません。ただし、生ごみを投入しない日でも攪拌はしてください。
3. Q: 枯葉や小枝を投入してもよいですか。
A: 生ごみだけの投入をお勧めします。

<分解が進まない>

4. Q: 始めてから1週間経ちますが、分解しません。
A: 最初は微生物があまりいないため、ほとんど分解しません。2週間ほどしてくと温度も上昇してきます。また、キャベツなどの芯はできるだけこまかくして入れましょう。
5. Q: 生ごみが分解していないようですが。
A: 廃食油または米ぬかをコップ1杯程度投入し、全体をよく攪拌してください。通常であれば、2～3日後には分解が進みます。それでも進まない場合は、さらに同量ずつ追加して様子を見てください。天かすやパン粉も効果的です。
6. Q: 生ごみが分解しているかわかりません。
A: 分解が進むと投入したごみがなくなっていくます。

<基材の管理>

7. Q: 理想の水分量とはどれくらいですか。
A: 基材を手で握るとお団子が作れて、それをつつくと崩れるぐらいの湿り具合の状態です。
8. Q: 基材の温度が低いのですが、大丈夫ですか。
A: 10℃以下になると微生物の活動が弱まり、分解の進みが遅くなります。廃食油や米ぬかを投入し、かき混ぜる回数を増やすと温度上がりやすいです。
9. Q: 数日間家を空ける時、ダンボールコンポストの管理はどうすればいいですか。
A: 出かける3日前には生ごみの投入を止め、その後は水分の調整と攪拌のみ行なってください。

<害虫・トラブル>

10. Q: 臭いが発生しました。
A: うまく微生物が働いていれば臭いはほとんどありません。臭いが発生した場合は、肉や魚を多く入れたと考えられます。その時には、生ごみの投入を止めて攪拌のみ行なってください。2～3日で臭いは落ち着きます。
※コーヒーやお茶がらを入れると臭いが和らぐといわれています。

11. Q:ウジ・ダニが発生しました。

A:ダニは基材が乾燥すると発生しやすくなります。基材の温度が上がると、ウジ・ダニは死滅します。ウジ・ダニが発生した場合には廃食用油などを投入し、よくかき混ぜてください。もしくは、ビニール袋に入れて口を縛り、1～2日天日干しすると、死滅します。虫は取り除かず、再度段ボールに入れて使用できます。

※スターターキットに入っていたビニール袋を保存しておく便利です。



12. Q:カビが発生しました。

A:基材の表面に白いカビが生えることがありますが、これは好気性微生物であり、そのまま続けて問題ありません。



<熟成期間>

13. Q:どのくらいの期間生ごみを投入できますか。

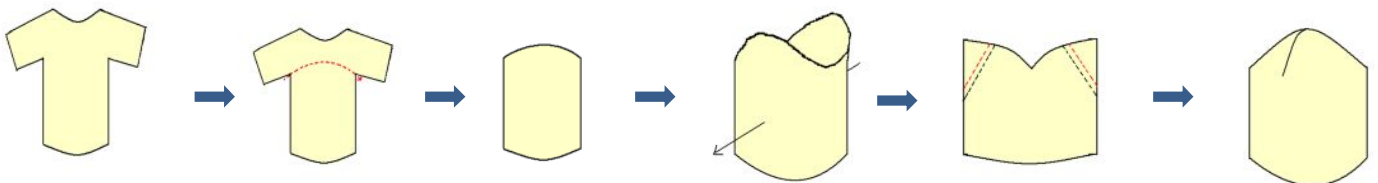
A:1日の生ごみ投入量が平均 500gだと3カ月くらいは処理できます。

14. Q:熟成期間終了後、堆肥に生ごみの欠片が残っています。

A:未分解の生ごみが作物の根や葉に触れると、作物が枯れる場合があります。目立つごみは、取り除いた方が安心です。

<虫予防のために…>

虫除けのカバーは不要なTシャツで作ることができます。



- ① Tシャツを裏返す ②点線に沿ってカット ③広げる ④点線を縫い、耳をカット ⑤山型に縫う

その他

★ご不明な点がございましたら、お気軽に電話、メールでお問い合わせください。

【問い合わせ先】合志市役所 環境衛生課 Tel 096-248-1202(直通)

メール kankyo@city.koshi.lg.jp